

みずまただより

— かしこく やさしく たくましく —

第9号

令和7年1月27日

瑞穂野北小学校

発行者 阿久津 浩久



2025年 今年もよろしくお願いたします

寒さの厳しい日が続いていたと思っていたのですが、気が付くと日中は春の陽気。各地で例年より早い初雪や日本海側での異例の積雪に冬の厳しさを心配していたのがうそのようです。つくづく気候の不安定さに地球規模での心配が付きまといます。

そのような中でも、本校ではインフルエンザなどの感染症が流行することもなく、児童は元気に学校生活を送っています。このまま3月まで健康に過ごしてほしいものです。

今年は巳年です。何か新しいことが始まる年と言われたり、「みどし」という読みになぞらえて実を結ぶ年、つまり何かがうまくいく、成功する年とも言われたりします。学校では、学年として最後の3か月となります。一年間の成長が確実に実を結ぶよう、まとめと振り返り、そして一つ上への学年への準備をしっかりと支援していきたいと思います。

まゆ玉づくり、どんど焼き (1月10日、11日)

どんど焼きに向けて、10日(金)にまゆ玉づくりを行いました。ボランティアの皆様が早くから家庭科室で下準備をしてくださり、3年生が生地を丸めてまゆ玉を作り、一人一人がミズキに飾りました。



前の週の日曜日、保護者の皆様が40本ほどの竹を切り運び、11日の廃品回収後から組み上げを始めました。去年は久しぶりの設営で、課題が残ったようですが、今回は見事に改善され、立派な山が組み上がりました。穏やかな気候な中、大きな炎が勢いよく上り、迫力がありました。

勢いよく立ち上る炎を見ながら、健康で充実した一年間をもたらしてくれるよう、子供たちと願いました。

廃品回収、お世話になりました 1月11日(土)

夏に引き続きPTA執行部をはじめ、厚生部や地区実行委員の皆様には回収や仕分けなど、大変お世話になりました。今回も皆様のご協力によりたくさんの資源を回収することができました。中でも新聞紙は今まで見たこともないような量が集まり、集積用のコンテナに入りきらないほどでした。

結果は右記のとおりとなりました！今回の収益金も有効に活用させていただきます。ありがとうございました。

【収益】

53,620円

(内訳)

紙類	48,740円
アルミ缶	4,500円
ビン・その他	380円

ゲストティーチャーをお招きして ～3年生 社会、6年生 社会～

学習内容をさらに深めるために、外部講師をお招きして授業を行っています。授業で使う教科書は、年々進化しており、特にタブレットが貸与されるようになってからは、QRコードでサイトにアクセスして動画を見ることができるようになっています。しかし、特に社会や理科など、身の回りの物を学ぶ教科では、可能な限り実物に触れる、専門家の話を聞く、体験することはどの学習でも重要なことです。

3年生の社会科では、宇都宮市消防局の方々がお招きいただき、宇都宮市の火災の発生件数や消火活動までの動きなどについて教わりました。また、実際の消防車を見学したり、消火活動に使う実物に触れたりしました。ホースの重さや消防車の様々な機能に目を輝かせながら熱心に話を聞いたり質問したりしていました。



6年生では、瑞穂野地区にお住まいの坂井様から戦争中の日本の様子についてお話を聞きました。坂井様は、元は高校の社会の先生で、栃木県内の地名のいわれや瑞穂野地区の歴史にも詳しい方です。校庭にある忠魂碑にまつわる話や戦時中の人々の暮らしなど、資料映像を交えながらの説明に、子供たちは真剣に耳を傾けていました。



コラム ～学校の公共性で子供たちを育む～

学校では日常的に起こりうることで、2学期になってから校庭で遊んでいるときのトラブルやトイレの利用の仕方、休み時間の過ごし方について指導する機会が続きました。原因を調べていくと「やりたいことができなかったからイライラした」、「悪口を言いたかったから言った」、「楽しいからからかった」というような理由によるものでした。

子供たちにはTPO【時間（time）、場所（place）、場面（occasion）】に応じて自分で判断して行動できる人になってほしいと思っています。そのためには、公私の区別という認識も必要であり、自由に過ごしてもよい時と、そうでない時の判断ができなければなりません。

学級という**集団で生活する学校は公の場**であり、これらを学ぶのに最適な場所です。人とかかわる場面では様々なトラブルはつきものです。また、集団の中ではルールが発生します。なぜなら、皆考えは同じではないし、自分の思いを完璧に伝えることは難しいからです。**トラブルを解決するためには思いやりや配慮、我慢が必要**ですし、**ルールを守るにもやはり我慢や配慮**がなければなりません。

しかし、子供たちはまだまだ未発達であり、感情と理性をコントロールすることが難しいのは至極当然です。ですから**学校の中では間違いは当たり前です。大切なことは、間違えたら改めることです**。私たち職員は、失敗や間違いがあった場面では子供たちと一緒に原因と改善案を考え、これからどうしたらよいかを考えさせます。怒られるから悪いことをしないという認識をもたせるのではなく、間違いがよくないことであることを理解させ、**自分の意志で自分を変えていくことをサポート**するのです。

コミュニケーションの基本となる**あいさつや返事、相手の気持ちを考えた言葉遣い**などは、本校にとって**大切な課題**だと思っています。また、「**自分さえよければいい**」という**感覚も改善が必要**だと感じています。子供たちの自己決定の中で、このような意識を変えていくことは時間のかかることではありますが、6年間という時間を有効に使って、これからも取り組んでいきますので、皆さまにもご理解とご協力をお願いします。